

肥前名護屋城と文禄・慶長の役①

～「肥前名護屋城」～

■肥前名護屋城

肥前名護屋城は、豊臣秀吉（1537年生～1598年没）が大陸侵攻のため、国内の軍事的拠点として築いた城である。

※本来、近世城郭は、政治・経済・宗教等の拠点であり、名護屋城のように、戦いだけを目的に築かれた城は、全国でも他に例をみない

※我国の城の始まりは「弥生時代」にまで遡る。

城をどのように定義するかによっても考え方は異なるが、基本的には、集落の周囲に大きな壕を掘り、掘った土を土塁として高め、敵の侵入を防ぐための防御施設のことを城と呼んだ。

「城」という漢字が「土」＋「成」で構成されている理由がここにあると言われる（中国＝説文解字）

現在、時代時代の特色を最も示す城として、全国で100の名城が選定されているが、佐賀県からは、弥生時代の環濠集落「吉野ヶ里遺跡」、九州初の本格的近世城郭「肥前名護屋城」、近世城郭の最後の姿をとどめる「佐賀城」の3つが、100名城に選定されている。

本城の総面積17万㎡、当時としては、大阪城に次ぐ規模を誇ると言われる巨大なこの城は、1591年10月に、黒田長政・小西行長・加藤清正ら、九州の大名たちによって、当時の垣添城を土台に築城が開始され、僅か5ヵ月後の1592年3月には完成したと言われる。

※近年、1590年銘の瓦が出土したことにより、築城年代が若干早まる可能性も指摘されている。

ただし、出土した瓦1点のみであり、後世の攪乱等も考えられることから、確定ではない肥前名護屋城図屏風を始め、当時の史料が伝えるところによると、本丸には五層の天守閣（地下1階を含む7階建て）が聳え、本丸に向かって渦巻状に「二ノ丸」「三の丸」「遊撃丸」「弾正丸」「山里丸」などの郭が整備されている。さらに本城を中心とする半径3kmの範囲には、全国から集まった大名・武将160名の陣跡も整備され、また、生活を支えるための物資を持って、京や大阪、堺から、多くの商人たちも集結、一大城下町を形成した。

その人口、20万人とも30万人とも言われ、辺境の地名護屋は、文禄・慶長の役が終焉を迎えるまでの7年間、まさに秀吉の夢の象徴として、僅かな栄華の時を刻んだ。

現在は、本城跡及び23の陣跡が特別史跡に指定され、発掘調査や整備事業が進められている。

豊臣秀吉が、何故、名護屋の地を選んだのか、その理由はいくつかあるとされるが、一番の理由は、朝鮮半島までの距離の近さではないかと言われている。名護屋の地から東京まで1,200km、釜山までだと、わずか190kmしかない。壱岐・対馬という2大島嶼が釜山までの間に並び、航海上のさまざまな問題（方角を見失う・荒天に見舞われるなど）がすべてクリアされることを考えると、この推論に異を唱える理由は見つからない。

※ただし、当初秀吉は、博多を最前線基地と考え、自らが着陣する「御座所」の設営を命じた記録も残る。

分野 歴史

地域 鎮西

◎地図・写真・統計資料など



肥前名護屋城図屏風



名護屋城の大手口

(佐賀県名護屋城博物館より)

◎引用・参考文献（出典）

◆肥前名護屋城と「天下人」秀吉の城

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html